組織目標評価報告書（令和6年度）

部局名：

歯学部

学域名：

医歯薬学域（歯）

部局長名：

久保田 聡

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(2-1) (2-2) (3-1) (7-1)	・ディグリーポリシーの改定に続き、それに基づいてカリキュラムポリシーおよびアドミッションポリシーの見直しに進んだ。それぞれの英語版も完成し、次世代のアウトカム基盤型教育の基盤が定まった。そして歯科医師国家試験合格率は新卒95.7%と高水準を維持した。 ・高校への入学説明では進路指導教員とも面談の場を設け、「歯学部志向性」を妨げるアンコンシャスバイアスの除去に努めた。こういった一連の努力の結果、入学試験一般選抜での志願者倍率は目標の3倍をはるかに超える4.5倍を達成した。国際バカロレア枠への出願者数も5名と過去最高をマークした。 ・生命系交流科目を整理し、歯学部担当科目を3つ削減することで教員の負担を軽減した。また50分授業ベースの新カリキュラムを構築しTarget2025の実施に万全を期した。新カリキュラムでは4年次までにモデル・コア・カリキュラムを修了でき、隣接医学科目のスリム化によって医学部教員の負担を大幅に軽減するなどの工夫が凝らされている。 ・「自由研究演習」を活用して学生の研究力を開発した結果、その成果でチューデントクリニシャンリサーチプログラム日本代表選抜大会に参加した学生が3位入賞を果たした。 ・本年度は新たな学部間協定を2件締結し、3件の更新を行なった。また短期派遣学生数は円安の影響もあり前年度よりも増やせなかった一方で、受入学生数では高水準を保ちつつ医学部保健学科とも連携したプログラムを開発し、受入総数は過去最高の53名(ODAPUSでの受入32名、その他受入21名)に達した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(1-1) (5-1) (6-1) (7-1) (8-1) (12-1) (12-2)	・専門医育成を看板とする「歯学学位プログラム」の下、研究と教育を進める大学院に多くの学生を集めるため、学部生に対するキャリア教育をさらに強化した。具体的には5、6年次学生と大学院教員との交流会を設け、卒業を控えた学生の覚醒を促した。 ・リカレント教育に多様性と持続性を付与するため、各教育研究分野が輪番制で毎年新たな企画を立ち上げるシステムを構築した。今年度は対面とWebのハイブリッド形式で、10月から11月にかけて開講した。 ・新たにフリピン大学マニラ校歯学部、タイのモンクット王工科大学と協定を締結し、ヤンゴン歯科大学(ミャンマー)、ガジャマダ大学(インドネシア)、トロント大学歯学部(カナダ)との協定の更新を行なった。 ・社会連携室は岡山大学歯学部同窓会、岡山大学歯学部後援会、岡山歯学会の事務室として活用している。ソーシャルコムズは総務課の、国際共同研究センターは歯学部国際交流委員会の所掌とした。オーブンラボの1つはJSTの創発的研究支援事業の支援を得た教員が活用中である。 ・全国歯学部長会議にて文部科学省、厚生労働省と情報交換を行い、同窓会と共に設立した岡山大学歯学部同窓会基金で教育環境を改善した。市および県の歯科医師会とは9月および12月に交流会を開催し連携を強めた。10月および2月には日本歯科医師会との情報交換会で協同作業を推進した。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(11-1) (11-2) (12-1) (12-2) (13-1)	・歯学部主催で「外部資金獲得、特許出願のすすめ」「CBTの省察」の2つのFD講演会を5月に、医療教育センター主催で7月に「教師のための非認知能力の育て方」を開催した。また9月に「歯学部の新戦略2024」、3月に在学・訪問歯科診療FDシンポジウムを開催した。 ・共用部分の管理システムを整備し管理担当を明確にした。その上で使用予定のない部分を学内外に有償貸出し有効活用する方法を策定し、4つの教育・研究分野が4つのスペースを有料で利用している。また改修に伴い教室に新AVシステムを整備し、学会など外部組織へ利用を呼びかけ、9つの学術団体が活用するとともに歯学部は収益を得た。 ・米国コロンビア大学から10月に女性助教を任用するとともに、それに先立って彼女の研究を継ぐ者として、昨年度大学院を修了した女性研究者を同大学に派遣し、国際共同研究を継続している。同様の人材育成システムを複数の海外研究機関と展開中である。 ・今年度5月の段階で、歯学部の基幹教員数が基準を満たしていることを確認できた。その後10月には研究に秀でた新教授が2人着任している。 ・公的化初の共用試験、CBTならびにOSCEをトラブルなく円滑に実施できた。ただ実施環境等に改善すべき点も明らかになったので、来年度は実施方法を微修正して臨む。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。